



ビオトープ・ニュース062

発行日 2014/02/02

発行：日本ビオトープ管理士会 徳島支部
 事務局：徳島市山城町東傍5-281 新弘測量設計株内
 事務局長：東條芳顕 TEL：088-622-5688

■ビオトープ・サロン 生物多様性保全と地球温暖化防止

昨年11月11日から23日まで、ポーランド・ワルシャワにおいて、国連気候変動枠組条約第19回締約国会議(COP19)、京都議定書第9回締約国会合(CMP9)等が行われました。地球温暖化防止は生物多様性保全と表裏一体の今世紀最大の課題でもあります。しかし、解決策はいずれも糸口すら見えないのが現状のようです。(編集局)

【気候変動枠組条約発効から20年の現状】

■世界気象機関(WMO)が発表：2013年の世界平均気温は過去7番目の暑さ

世界気象機関は、「2013年8月に四万十市で41度を観測し、日本の最高気温を更新」「フィリピンでは11月に猛烈な被害を出した台風30号が過去最強クラス」と指摘した。世界各地で相次いだ極端な気象を例示し、世界がこの10年ほど最も高温の傾向にある上、温室効果ガスの大気中濃度が増え続けていることから「このままではより高温な未来が確定する」と指摘、COP19での温暖化対策の交渉進展を促しました。

2013年の1~9月の平均気温は1961~1990年の平均に比べて約0.48度高く、過去約60年間で7番目に暑い年でした。世界の平均海水位は3月に過去最高となり、**上昇ペースは20世紀の2倍**になっています。各地で極端な気象が相次ぎ、日本や中国、韓国で猛暑となったほか、オーストラリアで1月の平均気温が過去最高を記録し、ブラジル北部やアフリカ南部で深刻な干ばつが発生しました。

■石原伸晃環境相がCOP19で公表：日本は温室効果ガス8.2%削減し京都議定書の目標達成

京都議定書の第一約束期間(2008~2012年度)に日本が排出した温室効果ガスの量は、基準年の1990年度と比べ8.2%減となり、6%減という目標の達成が確実となったとのこと。

削減目標6%は、森林による吸収3.8%、海外での排出枠獲得で1.6%、国内対策で0.6%減らす方針決め、達成計画を立てて削減を進められました。結果としては、リーマン・ショックの影響で**経済が低迷した2009年の排出量が急落**、森林による吸収や**海外から購入した排出枠の効果**が大きい。しかし、2011年の東京電力福島第一原発の事故後は急増し、2011~2012年度の排出量は**基準年を上回る水準**となっています。

■ジャーマンウォッチなどがまとめ：主要58の国や地域の温暖化対策ランキングで日本は50位で落第

世界の主要58の国と地域の中で、地球温暖化対策が最も進んでいるのはデンマークで、**日本は50位で「落第」**などとする温暖化対策ランキングをドイツの環境シンクタンク「ジャーマンウォッチング」などがまとめました。

日本は温室効果ガスの排出量が増加傾向にあるため、前年の44位から後退することになり、1~3位は**国際目標の達成に向けて十分な対策をとっている国がない**ことから、前年同様に「対象国なし」とのこと。トップは100点評価で75.23点のデンマークが4位、日本は47.21点で、5段階評価で「落第」とされた下位15の国と地域の中の一つとなりました。

■宇宙航空研究開発機構が公表：温暖化の影響で海水激減し最小記録を更新した

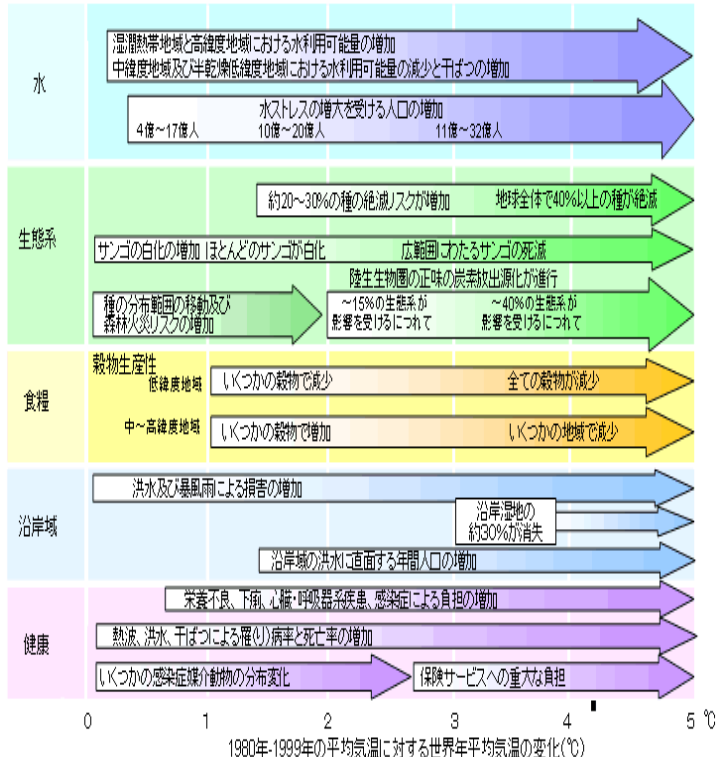
北極海の海水は1980年代には年間で最小の時期でも日本国土の約20倍にあたる700万km²以上ありましたが近年は激減しており、宇宙航空研究開発機構によると2013年9月に349万km²と**最小記録を更新**したとのこと。このことから、**北極圏の資源開発**が急速に進められていることに加え、アジアと欧州を結ぶ「北極海航路」を活用する船舶が増えつつあります。

北極海航路は、距離と日程の短縮でスエズ運河を通る従来の航路よりもコストを削減できますが、海水の状況に左右される一面もあり、日本の気象情報会社が海水予測のための人工衛星を打ち上げるなどの**新たなビジネス**も生まれているとのことです。

■COP16で気温上昇2℃目標

1992年に締結された国連気候変動枠組条約は、「**人類活動から排出される温室効果ガスの大気中濃度を、気候システムに危険な影響をもたらさない水準で安定化させること**」をその究極目的としています。しかし、条文の中には、危険な影響が何を意味するかについての具体的な記述や明確な数値はありませんでした。

その後、数多くの国際交渉を経て、2010年の第16回締約国会議(COP16)で採択された「カンクン合意」に「地球の平均気温上昇を**産業革命以前に比して2℃未満**とするためには地球全体の排出量の大幅な削減が求められること、及びこの**長期目標達成に向けて締約国は緊急の行動をとるべき(should)**ことを認識する」という文言が盛り込まれました。ここで気温上昇の基準が明確化され、またshouldを使うことで、**2℃目標が政策目標**として位置づけられたとされています。(地球温暖化は、本誌054にも取り上げています。)



■ビオトープ・サロン マスメディアからの話題 ～温室効果ガス大気から除去を～

温暖化の深刻な影響を回避するには大気から直接除去する技術が必要(徳島新聞 2014/1/18)とのこと。(編集局)

【40～70%削減…IPCC警告 次世代に過大な負担】

国連の気候変動に関する政府間パネル(IPCC)が「今のままでは大気中から直接除去する技術が必要のなる」と指摘した報告書案をまとめたとのこと。世界の温室効果ガス排出量は急増しており、経済成長国を中心に化石燃料の使用増加や人口増加が主因としています。世界の平均気温の上昇を産業革命前に比べて2度未満に抑えるという共通目標を達成するには、2050年までに世界の排出量を2010年比で40～70%削減する必要があるとのこと。

■みんなの“たからもの” 宿主はいったいどんな野鳥なのでしょうか…姿を見てみたいですね？

寄稿：KKさん



【我が家に暮らす野鳥たち】

写真上は、昨年11月末の日曜日、生け垣の刈り込み中に見つけた皿形の巣です。写真下は数年前のもので、ヨモギなどの草に埋もれたユスラウメにかけられた椀型の巣です。それぞれ、巣の形状から異なる種のように見えますが、野鳥の種類はわかりません。野鳥に詳しい方、どなたか教えていただけませんか？



我が家には、ヒヨドリ、メジロ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ジョウビタキ、ツグミ、モズなどが訪れる他、納屋の戸袋にムクドリ、マツ・スダジイ・マキなどにキジバト、スギ・カイズカイブキにカラスと、身近な野鳥が巣をかけます。これは、我が家の環境が良いわけではなく(ムクドリは例外として)周りにまとまった緑が無くなってしまった現れと思われる。

かつての雑木林は新興住宅に、民家の生け垣は道路拡幅にともないブロック塀に変わってしまいました。

我が家の庭のわずかな緑に命を託す野鳥たち、一方、スズメやツバメを見かける数はめっきり減り、周辺の水田からはスズメの脅しが消えて久しくなりました。

■ビオトープ・セミナー 資格試験に挑戦して基礎知識を修得しよう！

ビオトープ管理士資格試験過去問題 出展：(財)日本生態系協会主催「ビオトープ管理士セミナー」のテキストより
無断転載禁止：本紙は公益財団法人日本生態系協会の許可を得て転載しています。(編集局)

【施工部門1級の記述問題：正答と解説は次号で紹介】

問62：都心から電車で30分程度(郊外)のところにある戸建て住宅地のビオトープガーデン(地上で面積は約30坪)の設計・監理を依頼されたとします。ビオトープ管理士の立場として特に配慮すべき事項について、400字以内で述べなさい。

■前号061の解説

近隣公園の計画に当たり、里山保全の観点から公園にビオトープ機能を持たせる計画を具体的に検討する際に直面することが予想される制約、課題、解決策として次の事項があげられる

1. 制約・課題

- ・住区基幹公園としての適切な配置、近隣公園としての施設内用を考慮する必要がある。
- ・都市公園の要求機能等を満たしつつ、地域の自然環境の拠点となる野生生物の生息・生育空間を最大限に確保する。
- ・ビオトープとして確保した空間は、近隣公園の遊び場等の機能を持たせることが困難であり、本来の近隣公園機能に付加される形で一定の敷地を確保する必要がある。
- ・野草を処理(除草)する公園管理と、野草を保全するビオトープとしての管理という、一見すると相反する管理の調整及び管理主体をどうするかが課題となる。
- ・人にとって嫌悪される生物や、危険とされる生物に対する環境倫理をどう考えるかが課題となる。
- ・里山という二次的自然の継続的存在の確保(二次的自然環境の維持管理)が課題となる。

2. 解決策

- ・住区基幹公園としての配置・規模・施設内容、ビオトープとしての連続性、保全エリアと利用エリアの分離、住民参加に対する理解と協力体制づくりを行う。
- ・コスト削減と住民参加の協力、周辺環境や生態系との調和、在来種の活用・維持・管理に配慮する。
- ・公園としての安全利用(ゾーニング)、危険生物の取り扱い(立ち入り禁止措置など)、二次的自然の維持管理とコスト削減(NPO等との協働、環境教育の推進)に配慮する。

※2級はどなたでも受験でき、四国の受験会場は「徳島大学工学部」です。自然環境の保全に関わる方には、是非とも取得していただきたい資格です。詳しくは、<http://www.ecosys.or.jp/> (公益財団法人 日本生態系協会HP)

■編集後記

ビオトープに関するお役立ち情報はもとより、皆様の生活や活動やお仕事等、日常を通じて見たり感じたりしたこと、身近な自然の春夏秋冬や喜怒哀楽のご寄稿をお待ちしております。ふるってご参加ください！ 編集局
 [E-mail : kanv@nifty.com URL : <http://biotopetokushima.yu-yake.com>]